

FUJIFILM

2013年度 第2四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2013年10月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

日頃お世話になっております。社長の中嶋でございます。
本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2013年度第2四半期決算の全般的な概要について、私の方からご説明させていただきます。

ご承知の通り、デジタルカメラはスマートフォン普及の影響を受け厳しい状況が続いているものの、世界経済全体でゆるやかな回復傾向にあることや、特に日本経済はアベノミクスの効果や為替円安の追い風もあり、事業全体では今年度の4月末に説明しました今年度の業績見通しに対して、順調な進捗となっております。

2013年度上期の総括として、その中で、いくつかのポイントとなる事業、特に成長事業分野として重点的に取り組んでいる「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」の各分野について、コメントさせていただきます。

2013年度上期の総括

- ・**メディカルシステム事業で大幅増益達成、利益拡大の体制へ**
 - 差別化製品の開発と営業力向上による売上拡大
 - コスト削減や固定費の削減
- ・**富士フィルムの研究・開発による医薬候補品の臨床開発を開始**
 - テーラーメイド型がんペプチドワクチン「ITK-1」の第Ⅲ相臨床試験を国内で開始
 - 抗がん剤「FF-10501」の第Ⅰ相臨床試験を国内で開始
- ・**新規高機能材料の拡販**
 - タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」の採用数の増加
 - 太陽電池用バックシートの「Premium認証」取得
- ・**ドキュメントの売上成長・利益率アップ**
 - アジア・オセアニア地域を中心に売上成長
 - コスト削減や経費効率化

成長分野の拡大と企業体質の強化で収益力向上へ

2

「ヘルスケア」では、メディカルシステム事業で大幅な増益を達成し、利益拡大のための体制が整ってきました。

差別化製品の開発と営業力向上による売上の拡大と、昨年度から重点的に取り組んできたコスト削減や固定費削減の施策が実を結んでおり、増益という目に見える形で結果に出てきております。

また富士フィルムが研究・開発を進めた医薬候補品のうち、テーラーメイド型がんペプチドワクチン「ITK-1（アイティーケーワン）」の第三相試験と、抗がん剤「FF-10501」の第一相試験を国内で開始し、将来の成長基盤を整えつつあります。

「高機能材料」では、新規高機能材料が立ち上がってきました。

タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」の拡販を進め、採用企業が増えています。また太陽電池用バックシートは、当社製品が搭載された太陽電池モジュールが第三公的機関により、高い耐久性を示す認証を取得したことにより、品質に対する評価が高まっており、拡販を図っています。

「ドキュメント」では、付加価値の高い製品・サービスの提供を推し進め、全地域での売上成長という結果として表れました。さらにコスト削減や経費の効率化も功を奏し、大幅に増益しました。

以上のように、上期の状況を振り返ってみますと、これまで積極的に経営資源を投入してきた重点事業領域が、着実に成長してきていると実感しております。

さて、弊社は来年の2014年1月に創立80周年を迎えます。写真・映画の事業からスタートしましたが、それらで培った技術を展開させ、会社として持続的に発展するための新たな成長の柱を育てています。今後も引き続き成長事業分野の拡大に取り組むとともに、私が陣頭指揮をとって進めている企業体質の強化を推し進め、収益力を向上させます。

この将来への発展に向けた強い意志と、日ごろ弊社をご支援いただいている株主の皆様への感謝の意を表すため、今年度に予定しておりました配当金40円に加え、記念配当として10円を増配することといたしました。株主・投資家の皆様には、引き続きご支援をたまわりたくお願いいたします。

私からは以上となります。

引き続き、助野執行役員より、2013年度上期の業績についての詳細をご説明いたします。

2013年度上期 業績 (2013年4月~2013年9月)

(単位:億円)

	2012年度上期	2013年度上期	対前年度
売上高	10,616 100.0%	11,743 100.0%	1,127 +10.6%
営業利益	423 4.0%	574 4.9%	151 +35.7%
税金等調整前 四半期純利益	330 3.1%	625 5.3%	295 +89.6%
当社株主帰属 四半期純利益	105 1.0%	315 2.7%	210 +200.4%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	21.74円	65.30円	43.56円
為替 :米ドル	79円	99円	20円安
:ユーロ	101円	130円	29円安

*営業利益 増減要因(対前年度) 為替: +183億円、原材料: -16億円

3

日頃お世話になっております。助野でございます。
私から、2013年度上期業績について、詳細をご説明させていただきます。

2013年度上期は、
メディカルシステム・ライフサイエンスやドキュメントが好調だったことや、
為替円安の効果で、
連結売上高は前年比10.6%増の1兆1,743億円、
営業利益は、前年比35.7%増の574億円の増収増益となりました。

加えて為替差損益が改善したこと等により、
税金等調整前四半期純利益は、前年比89.6%増の625億円、
当社株主帰属四半期純利益は、前年比3倍の315億円で、
1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、65円30銭となりました。

上期 セグメント別: 連結売上高 / 営業利益

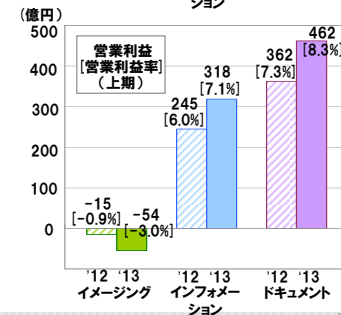
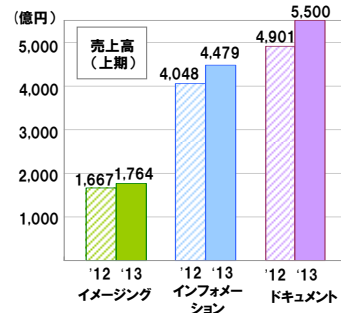
(単位: 億円)

売上高	上期		対前年度
	2012年度	2013年度	
イメージング	1,667	1,764	97 (+5.8%)
インフォメーション	4,048	4,479	431 (+10.7%)
ドキュメント	4,901	5,500	599 (+12.2%)
合計	10,616	11,743	1,127 (+10.6%)

*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

営業利益	上期		対前年度
	2012年度	2013年度	
イメージング	-15	-54	-39 (-)
インフォメーション	245	318	73 (+30.0%)
ドキュメント	362	462	100 (+27.5%)
全社/連結調整	-169	-152	17
合計	423	574	151 (+35.7%)



*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年比5.8%増の1,764億円、営業損失は54億円となりました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年比10.7%増の4,479億円、営業利益は前年比30%増の318億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年比12.2%増の5,500億円、営業利益は前年比27.5%増の462億円となりました。

上期 セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
1,764	97 (+5.8%)	-54	-39 (-)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラの販売が好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加。
- ・ 電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が継続し、売上が減少。Xシリーズをはじめとする高級機種の販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズやプロジェクター用レンズなどの販売も好調に推移し、売上が大幅に増加。

**増収を確保したものの、
コンパクトデジタルカメラの需要減少の
影響等を受け、減益**

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューション からイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

5

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラの販売が好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加しました。

電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が継続しており、売上が減少しました。

一方、「FUJIFILM X-M1」「FUJIFILM X100S」などのXシリーズを始めとする高級機種の販売は、好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズやプロジェクター用レンズなどの販売も好調に推移したことにより、売上が大幅に増加しました。

この結果、光学・電子映像事業合計で、売上が増加しました。

イメージング ソリューション部門は、増収を確保しましたが、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響などを受け、減益となりました。

上期 セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
4,479	431 (+10.7%)	318	73 (+30.0%)

- ・医療システムでは、成長領域である医用画像情報システムや内視鏡をはじめとして事業全体で販売が好調に推移。
医薬品は富山化学や富士フィルムファーマなどの売上が増加。
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、IT機器の需要が低迷している影響で、WVフィルムの販売が減少したものの、テレビの販売が好調だったことなどにより、プレーンタック、VA用フィルム、IPS用フィルムの販売が堅調に推移。
- ・グラフィックシステムでは、他社からの切り替えが順調に進んだことによりCTPプレートの販売が堅調に推移。
- ・産業機材ではタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの販売が堅調に推移。
電子材料、記録メディアも売上が増加。

**医療システム・ライフサイエンス等の事業が
好調だったことや、為替円安の効果もあり、
増収増益**

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

6

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

医療システム・ライフサイエンスでは、医療システムの成長領域である医用画像情報システムや内視鏡をはじめとして事業全体で販売が好調に推移しました。
医薬品は、富山化学の「ゾシン」の販売が引き続き好調だったことや、富士フィルムファーマにおいて、バイエル薬品の先発薬の販売が堅調に推移したことなどにより、売上が増加しました。

フラットパネルディスプレイ材料は、IT機器の需要が低迷している影響でWVフィルムの販売が減少したものの、北米や 中国でのテレビの販売が好調だったことにより、プレーンタック、VA用フィルム及び IPS用フィルムの販売が堅調に推移しました。

グラフィックシステムでは、他社からの切り替えが順調に進んだことによりCTPプレートの販売が堅調に推移しました。

産業機材では、工業用X線フィルムの販売が好調に推移したことに加え、新規高機能材料のタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの販売が堅調に推移しました。
また電子材料、記録メディアの売上也増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、医療システム・ライフサイエンス等の事業が好調だったことや、為替円安の効果もあり、増収増益となりました。

上期 セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
5,500	599 (+12.2%)	462	100 (+27.5%)

- ・国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加。
- ・オフィスプロダクトは、全ての地域においてカラー機の販売台数が増加し、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機も増加。
- ・オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でカラー機の販売が好調に推移し、販売台数が増加。
- ・プロダクションサービスは、国内、アジア・オセアニア地域および米国ゼロックス社向け輸出のいずれもカラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調で、全体で販売台数が増加。
- ・グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニア地域において売上が増加。
- ・売上の増加とともに、製造原価改善及び経費効率化も寄与し増益。

**全ての地域において販売が堅調に推移し
増収増益**

ドキュメント ソリューション部門については、国内、アジア・オセアニア地域、および米国ゼロックス社向け輸出のいずれにおいても売上が増加しました。

オフィスプロダクトは、すべての地域においてカラー機の販売台数が増加し、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機の販売台数も増加しました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でカラー機が好調に推移しました。

プロダクションサービスは、全ての地域においてカラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調で、全体で販売台数が増加しました。

グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域において売上が増加しました。

売上が増加したことに加え、製造原価改善および経費効率化も寄与し、ドキュメント ソリューション部門は増収増益となりました。

連結貸借対照表

(単位:億円)									
	11年度 末	12年度 末	13年9月 末	対12年度 末		11年度 末	12年度 末	13年9月 末	対12年度 末
現金 及び現金同等物	2,351	4,454	5,149	695	長短社債 及び借入金	1,989	3,583	3,723	140
受取債権	5,565	5,889	5,649	-240	支払債務	2,584	2,510	2,345	-165
棚卸資産	3,780	3,999	4,032	33	その他流動 固定負債	4,259	4,255	4,162	-93
有価証券 その他流動資産	1,524	1,271	1,493	222	負債計	8,832	10,348	10,230	-118
流動資産計	13,220	15,613	16,323	710	株主資本計	17,218	18,689	19,346	657
有形固定資産	5,539	5,461	5,367	-94	非支配持分	1,347	1,559	1,627	68
営業権	3,935	4,122	4,152	30	純資産計	18,565	20,248	20,973	725
投資有価証券 その他資産	4,703	5,400	5,361	-39	負債・純資 産 合計	27,397	30,596	31,203	607
固定資産計	14,177	14,983	14,880	-103	(単位:円)				
資産合計	27,397	30,596	31,203	607	期末日 為替レート	11年度 末	12年度 末	13年9月 末	対12年度 末
					米ドル	82	94	98	4円安
					ユーロ	110	121	132	11円安

8

次に、バランスシートについてご説明します。

2013年9月末時点の資産は、現金及び現金同等物の増加や為替の円安影響により、3月末時点と比べ607億円増の3兆1,203億円となりました。

負債は、退職給付引当金などの固定負債が減少したことにより、118億円減の1兆230億円となりました。

株主資本は、657億円増加し1兆9,346億円となりました。

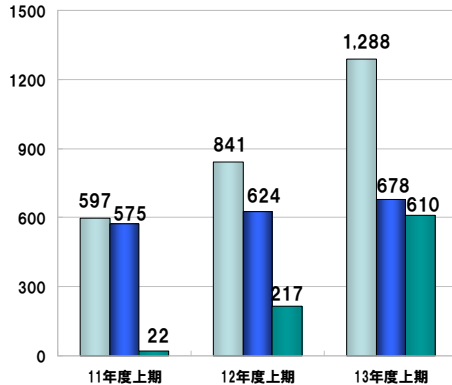
流動比率は、前期末に比べ8.7ポイント増の294.5%、負債比率は2.5ポイント減の52.9%、株主資本比率は0.9ポイント増の62.0%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

(単位:億円)



	11年度 上期	12年度 上期	13年度 上期
四半期純利益	215	175	410
減価償却費	704	669	680
受取債権の増(-)減(+)	15	497	333
棚卸資産の増(-)減(+)	-191	-170	76
営業債務の増(+)-減(-)	-160	-279	-126
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-160	-192	-37
その他	174	141	-48
営業活動によるCF	597	841	1,288
設備投資	-510	-446	-379
ソフトウェアの購入	-98	-89	-116
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	151	100	-42
その他	-118	-189	-141
投資活動によるCF	-575	-624	-678
フリー・キャッシュ・フロー	22	217	610
営業活動によるCF+設備投資	87	395	909

9

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益の増加などにより、1,288億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う有形固定資産の購入などにより、678億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、610億円のプラスとなりました。

以上で、2013年度第2四半期決算の説明とさせていただきます。

2013年度 連結業績予想 (2013年10月30日時点)

(単位:億円)

	2012年度	2013年度 (予想)	対前年度
売上高	22,147 100.0%	23,500 100.0%	1,353 +6.1%
営業利益	1,141 5.2%	1,400 6.0%	259 +22.7%
税金等調整前 当期純利益	1,192 5.4%	1,400 6.0%	208 +17.5%
当社株主帰属 当期純利益	543 2.5%	700 3.0%	157 +29.0%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	112.65円	145.27円	32.62円
為替 :米ドル :ユーロ	83円 107円	97円 127円	14円安 20円安

* 2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

* なお、第3四半期以降の為替レートは、米ドル:95円、ユーロ:125円を想定しております。

10

ここからは、2013年度の業績予想について、ご説明いたします。

2013年度の業績予想は、すでに発表している内容から変更せず、
売上高2兆3,500億円、営業利益1,400億円としています。

第2四半期までの状況を見ますと、売上・営業利益とも想定をやや上回って順調に推移しており、今年度の業績予想の達成の確度は高まっていると思われま

今後の収益の柱として重点的に取り組んでいる「ヘルスケア」分野では、
医療IT・内視鏡・超音波診断装置などの拡販強化や、医薬品事業の収益向上を実現し
ます。

「高機能材料」分野では、フラットパネルディスプレイ材料の収益維持を図りつつ、
タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」や太陽電池用バックシートなどの新製
品を拡販します。

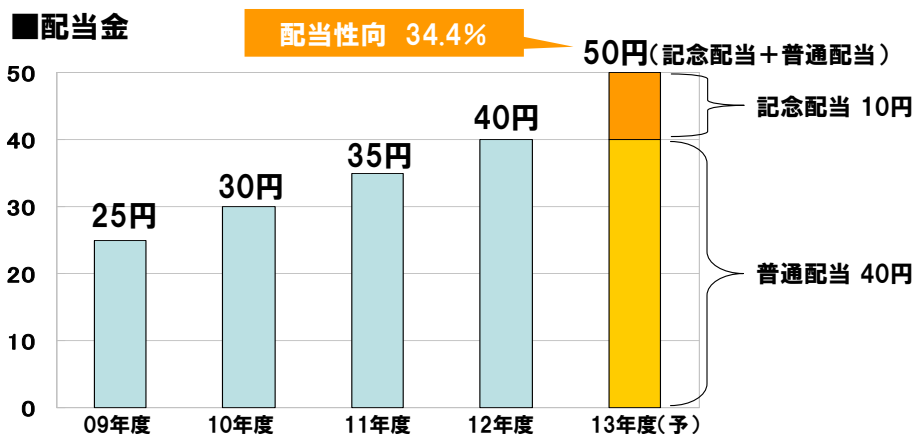
「ドキュメント」分野では、ソリューションサービスの拡大と、競争力の高い新製品による
ラインアップ拡充により、アジア・オセアニア地域での販売強化を図ります。
また米国ゼロックス社との協業により、欧米、新興国での拡販も図ります。

一方、デジタルカメラについては、コンパクトデジタルカメラの需要減少を受け、
引き続き厳しい状況が続くと見ております。上期でも実施している固定費の削減を継続
して行い、縮小した市場でも利益を生み出せる体制にします。

このように下期でも、成長分野にて引き続き拡販施策を強化するとともに、
一層のコストダウン・経費削減を推進し、利益を拡大させます。

株主還元

創立80周年を記念し、10円の記念配当を予定。
2013年度の配当金は普通配当 40円と併せ、50円の予定。



【株主還元方針】

- ・ 配当を重視。配当性向25%以上。
- ・ 自己株式取得は、キャッシュフローを勘案し、機動的に実施。

11

最後に、株主還元についてご説明いたします。

冒頭に、中嶋社長よりご説明したとおり、2013年度は、2014年1月に創立80周年を迎えるにあたり、10円の記念配当を予定しております。

2013年度の配当金は、当初予定しておりました普通配当40円と記念配当を合わせて50円を予定しております。

FUJIFILM

わたしたちは、先進・独自の技術をもって、
最高品質の商品やサービスを提供する事により、
社会の文化・科学・技術・産業の発展、
健康増進、環境保持に貢献し、
人々の生活の質のさらなる向上に寄与します。

富士フイルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2013年度第2四半期および2013年度の見通しについて、ご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2013年度第2四半期 決算説明会

参考資料

2Q/上期 業績

	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
売上高	5,433 100.0%	6,056 100.0%	623 +11.5%	10,616 100.0%	11,743 100.0%	1,127 +10.6%
営業利益	214 3.9%	323 5.3%	109 +51.3%	423 4.0%	574 4.9%	151 +35.7%
税金等調整前 四半期純利益	196 3.6%	322 5.3%	126 +64.1%	330 3.1%	625 5.3%	295 +89.6%
当社株主帰属 四半期純利益	80 1.5%	165 2.7%	85 +107.2%	105 1.0%	315 2.7%	210 +200.4%
為替 :米ドル	79円	99円	20円安	79円	99円	20円安
:ユーロ	98円	131円	33円安	101円	130円	29円安

*営業利益 増減要因(上期 対前年度) 為替: +183億円、原材料: -16億円

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	815	904	89 (+10.9%)	1,667	1,764	97 (+5.8%)
インフォメーション	2,146	2,305	159 (+7.4%)	4,048	4,479	431 (+10.7%)
ドキュメント	2,472	2,847	375 (+15.2%)	4,901	5,500	599 (+12.2%)
合計	5,433	6,056	623 (+11.5%)	10,616	11,743	1,127 (+10.6%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	-40 [-4.9%]	-45 [-4.9%]	-5 (-)	-15 [-0.9%]	-54 [-3.0%]	-39 (-)
インフォメーション	171 [8.0%]	203 [8.8%]	32 (+18.5%)	245 [6.0%]	318 [7.1%]	73 (+30.0%)
ドキュメント	171 [6.8%]	245 [8.5%]	74 (+43.2%)	362 [7.3%]	462 [8.3%]	100 (+27.5%)
全社/連結調整	-88	-80	8	-169	-152	17
合計	214	323	109 (+51.3%)	423	574	151 (+35.7%)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリセットしています。

15

<当スライドは配付資料です>

2Q（3ヶ月）セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントカメラの販売が1Qに引き続き好調で、フォトイメージングの売上が増加。
- コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受け、デジタルカメラの販売台数は前年同期比で大幅に減少したものの、為替円安および高級機種への拡販により売上は5%減少で着地。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が1Qに引き続き好調。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステム・医薬品は堅調に推移。ライフサイエンスでは新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホホワイト」の販売が好調。
- フラットパネルディスプレイ材料は、好調だった1Qとの比較では在庫調整が入り始め、売上は減少。
- グラフィックシステムのCTPプレートやデジタルプリンティング機器の販売が堅調に推移。

■ ドキュメント ソリューション

- 国内、アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出の全ての地域において増収。
- 売上高の増加による売上総利益の増加に加え、製造原価改善および経費効率化が寄与したことにより、営業利益も対前年で増益。

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
フォトイメージング	481	518	37 (+7.8%)	959	1,003	44 (+4.6%)
電子映像	209	199	-10 (-5.1%)	467	405	-62 (-13.2%)
光学デバイス	125	187	62(+49.8%)	241	356	115 (+47.5%)
光学・電子映像	334	386	52(+15.4%)	708	761	53 (+7.5%)
合計	815	904	89(+10.9%)	1,667	1,764	97 (+5.8%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	-40 [-4.9%]	-45 [-4.9%]	-5 (-)	-15 [-0.9%]	-54 [-3.0%]	-39 (-)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

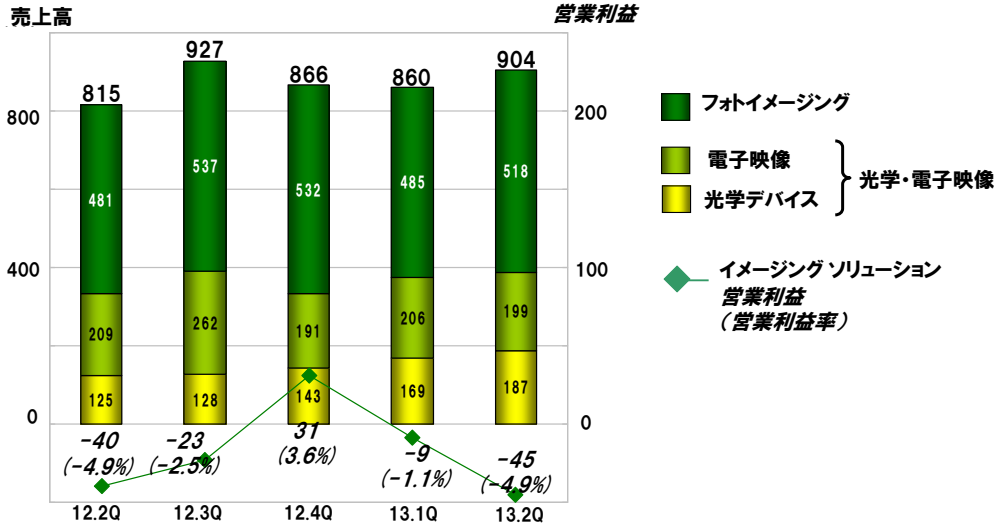
17

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューション からイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
メディカルシステム ライフサイエンス	827	922	95 (+11.4%)	1,504	1,719	215 (+14.4%)
グラフィックシステム	586	696	110 (+18.7%)	1,167	1,356	189 (+16.1%)
フラットパネル ディスプレイ材料	376	352	-24 (-6.3%)	748	752	4 (+0.6%)
記録メディア	94	110	16 (+17.7%)	192	219	27 (+14.2%)
産業機材/電子材料他	263	225	-38 (-14.5%)	437	433	-4 (-1.0%)
合計	2,146	2,305	159 (+7.4%)	4,048	4,479	431 (+10.7%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
インフォメーション	171 [8.0%]	203 [8.8%]	32 (+18.5%)	245 [6.0%]	318 [7.1%]	73 (+30.0%)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。
*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組織換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

19

<当スライドは配付資料です>

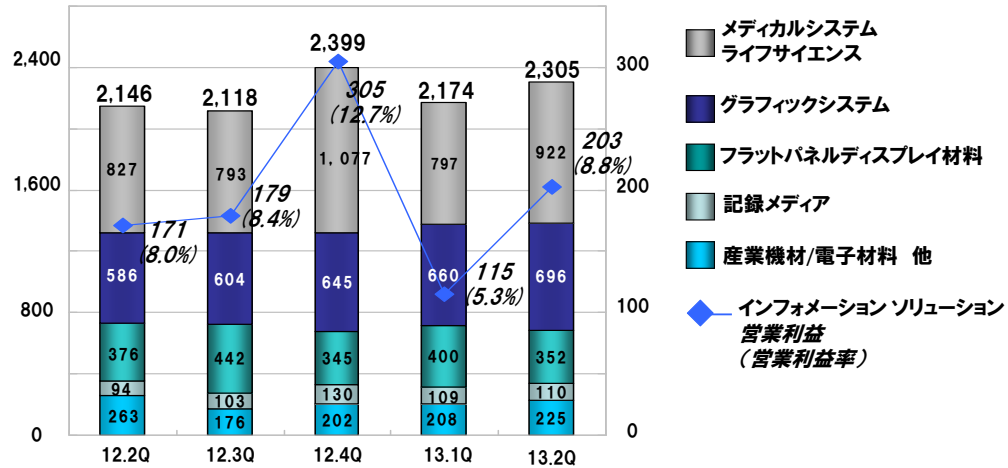
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



*セグメント間取引消去後

*産業機械とグラフィックシステムの一部事業の組換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,230	1,300	70 (+5.7%)	2,461	2,577	116 (+4.7%)
オフィスプリンター	387	454	67 (+17.3%)	789	876	87 (+11.0%)
プロダクションサービス	369	393	24 (+6.4%)	714	752	38 (+5.3%)
グローバルサービス	270	396	126 (+46.7%)	508	735	227 (+44.8%)
その他	216	304	88 (+41.2%)	429	560	131 (+30.4%)
合計	2,472	2,847	375 (+15.2%)	4,901	5,500	599 (+12.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
ドキュメント	171 [6.8%]	245 [8.5%]	74 (+43.2%)	362 [7.3%]	462 [8.3%]	100 (+27.5%)

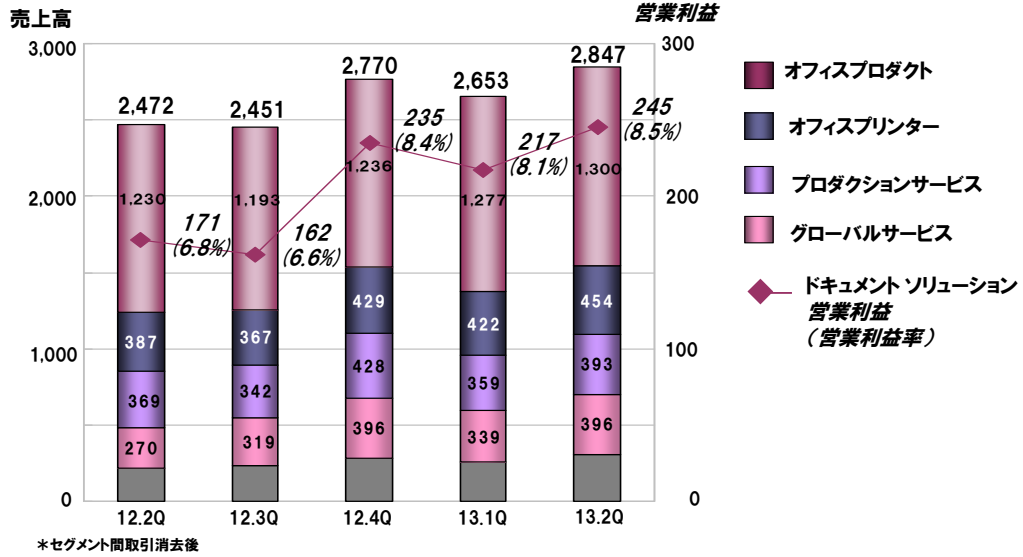
21

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2012年度 上期		2013年度 上期		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	45.4%	4,814	41.7%	4,895	81 (+1.7%)
米州	18.1%	1,920	18.0%	2,118	198 (+10.3%)
欧州	11.3%	1,205	11.9%	1,400	195 (+16.2%)
内、中国	8.8%	930	10.9%	1,284	354 (+38.0%)
アジア他	25.2%	2,677	28.4%	3,330	653 (+24.4%)
海外	54.6%	5,802	58.3%	6,848	1,046 (+18.0%)
合計	100.0%	10,616	100.0%	11,743	1,127 (+10.6%)

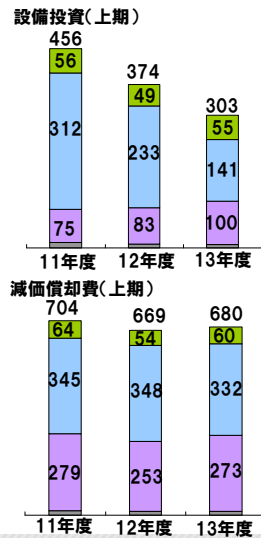
23

<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



年度	2Q			上期			通期		
	2011	2012	2013	2011	2012	2013	2011	2012	2013 (予想)
イメーシング	15	28	23	56	49	55	128	99	150
インフォメーション	184	119	74	312	233	141	562	399	430
ドキュメント	54	59	67	75	83	100	193	248	290
コーポレート	11	6	4	13	9	7	26	21	30
設備投資 ※	264	212	168	456	374	303	909	767	900
イメーシング	32	26	29	64	54	60	146	133	-
インフォメーション	177	175	167	345	348	332	725	718	-
ドキュメント	137	126	143	279	253	273	575	531	-
コーポレート	9	6	7	16	14	15	32	33	-
減価償却費	355	333	346	704	669	680	1,478	1,415	1,400
有形固定資産の減価償却費 ※	229	221	220	452	430	426	966	934	900

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

* 2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。 24

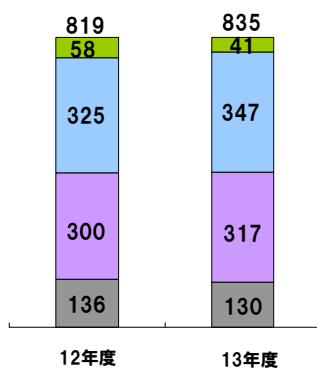
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(上期)



年度	2Q		上期		通期	
	2012	2013	2012	2013	2012	2013 (予想)
イメージング	33	12	58	41	105	-
インフォメーション	165	164	325	347	675	-
ドキュメント	156	161	300	317	634	-
コーポレート	70	68	136	130	268	-
研究開発費	424	405	819	835	1,682	1,700
<売上高比>	7.8%	6.7%	7.7%	7.1%	7.6%	7.2%
販売費及び 一般管理費	1,447	1,535	2,895	3,059	5,682	-
<売上高比>	26.7%	25.4%	27.3%	26.1%	25.6%	-

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

25

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2012年度						2013年度				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	下期 (予想)	通期 (予想)
米ドル	80	79	79	81	93	83	99	99	99	95	97
ユーロ	103	98	101	105	122	107	129	131	130	125	127

*2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2012年度						2013年度				
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	下期 (予想)	通期 (予想)
銀	79	71	76	83	91	81	78	68	74	80	77

人員

(単位:人)

	2012.9末	2012.12末	2013.3末	2013.6末	2013.9末
連結	79,845	81,542	80,322	79,965	79,837

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

富士フィルム連結グループのパイプライン

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗ウイルス剤	経口	日本	承認申請中	
			米国	P II 終了、P III 準備中	
T-3811	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口	中国	P III 終了、申請準備中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌剤	注射	米国	P I 実施中	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	経口	米国	P II 実施中	
			日本	P I 実施中	
T-4288	マクロライド系抗菌剤	経口	日本	P I 実施中	
バイオ TK-1	抗癌剤(前立腺癌)	注射	日本	P III 実施中	
FF-10501	抗癌剤(血液癌)	経口	日本	P I 実施中	
			欧米	P I 準備中	
バイオ FF-21101	抗癌剤(難治性固形癌)(Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
FF-10502	抗癌剤(難治性固形癌)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、計画通り2013年4月に欧州でP Iを開始。

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2013年 6月 ドキュメント事業説明会
- 2013年 9月 産業機材事業説明会

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2013

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2013/index.html